技術

平成の大修理では、伝統の技術がさまざまな箇所で生かされました。屋根工事では檜皮（ひわだ）職人が竹釘を用い、檜皮で屋根を葺きました。社殿等の彩色では、膠（にかわ）と伝統的な顔料を中心に使用しました。木工事では、破損した部材を忠実に補修・再現しました。飾金具についても、使用できるものについては金箔を施し、取替が必要なものは忠実に再現しました。技術的に困難を極めたのは、本社本殿中央の板絵と、本殿両脇の扉絵の修復でした。剥落が激しかったこれらの絵も、技術者たちの努力により、あざやかに甦りました。

工事用の足場

檜皮を葺く

修復のため取り外された蟇股

組み物部分の彩色

修復中の本殿扉絵

新たに箔押しした本殿扉の飾金具

泉大津市・桃山学院大学連携事業

泉穴師神社平成大修理完成記念企画展

甦る泉穴師神社

～平成大修理のすべて～

◆泉穴師神社

2017年 4月29日（土祝）
10:00-11:30
〒595-0023 泉大津市豊中町 1-1-1

◆泉大津市立織編館ギャラリー

2017年 4月29日（土祝）～5月21日（日）
10:00-17:00(入館は16:30)水曜休館
〒595-0025 泉大津市旭町 22-45 テクスピア大阪 1F

◆桃山学院大学 学院史料展示コーナー

2017年 5月24日（水）～6月27日（火）
9:00～17:00(入館は16:30) 土・日・祝日閉室
〒594-1152 和泉市まなび野 1-1 桃山学院大学 聖ペテロ館 2 階

◆泉穴師神社修理事業の概要

泉穴師神社の修理は戦後 2 回実施されました。昭和 32 ～ 33 年の修理は本社本殿の半解体工事と摂社春日社・住吉社の解体工事、昭和 54 年の修理は本社本殿屋根の全面葺替を行っています。今回の修理は、本社本殿が前回の修理から 35 年、摂社春日社および住吉社が 56 年ぶりの実施となりました。

工事は主に檜皮葺屋根の葺き替えと塗装の塗り替えです。修理の原因は屋根檜皮材の腐朽、塗装・彩色面の褪色・剥離の他、壁板のずれ、組物の緩み、錺金物の欠落などがあげられます。これらは主に経年劣化によるものが多く、建造物の維持・保存のためには定期的な修理が欠かせません。

工事実施にあたっては、まず建物周囲に足場・素屋根を設置しました。屋根修理では、軒先廻りの野地板の破損修理、檜皮葺き替え、屋根上の鬼板、千木、勝男木等破損部分の修理を実施しました。塗装の塗り直しでは、褪色した柱や蟇股、組み物等部材について、昭和 32 ～ 33 年修理完了時の状態に可能な限り近い復元彩色を実施しました。本殿の板絵・扉絵については、特に屋外に面した部分で劣化が著しい状況でしたが、過去に撮影された写真等を参考に復元し、記録保存のため図面を作成しました。

主催 / 泉大津市教育委員会 桃山学院大学 泉大津市文化財保護委員会　　協力 / 宗教法人泉穴師神社

お問い合せ　泉大津市教育委員会生涯学習課　大阪府泉大津市東雲町 9-12　℡0725-33-1131(代表)

信仰

泉穴師神社は古代から地域の信仰を集めてきた延喜式内社です。伝承では、白鳳元年 (672) の創建とされます。祭神は天忍穂耳命 (あめのおしほみみのみこと) と栲幡千々姫命(たくはたちぢひめのみこと)を主神として祀っています。このうち栲幡千々姫命は織物の神様で、繊維産業が盛んな泉大津の繊維業者の信仰を集めています。祭神については、級長津彦 (しなつひこ)・級長津姫神 (しなつひめ) という風の神であるとの記録もあります。「穴師」の名称は、冬に北西の方角から吹く風「あなぜ」からついたともいわれ、その意味では風の神様が祀られたとも考えられます。

平成 28 年 8 月 17 日、泉穴師神社所蔵の神像 80 躯が、国指定重要文化財に指定されました。京都市上京区の大将軍八神社に並んで、1 神社で所蔵する重文の神像数としては日本最多です。特に、平安時代の作である主神 2 躯は彫刻・彩色ともに秀逸です。摂社春日神社には天富貴命 (あめのふきのみこと)・古佐麻槌命 (こさまづちのみこと) が、摂社住吉神社には表筒男命 (うわつつのおのみこと)・中筒男命 (なかつつのおのみこと)・底筒男命 (そこつつのおのみこと)・息長足姫命 (おきながたらしひめ) が、それぞれ祀られています。

重文　木造栲幡千々姫命坐像・木造天忍穂耳命坐像

重文　泉穴師神社摂社住吉神社本殿

重文　泉穴師神社本殿

重文　泉穴師神社摂社春日神社本殿

伝統

飯ノ山だんじり

秋祭りの際には、だんじりに盛飯を載せて神前にささげる珍しい行事がおこなわれます。

自然

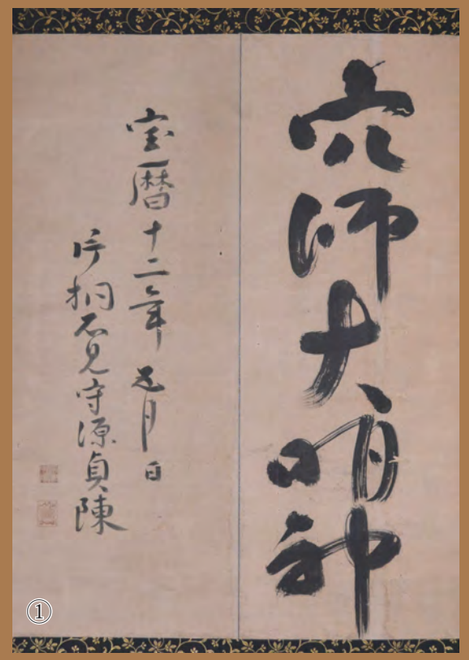
クスノキ大木群

境内には市の天然記念物に指定されているクスノキ大木群があり、鬱蒼とした杜を形成しています。

歴史

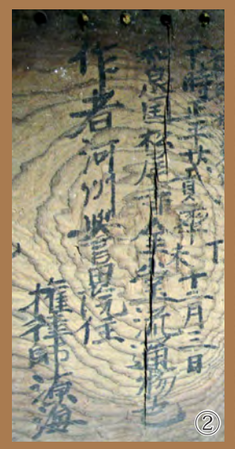
「穴師」という地名の初出は、『和泉国正税帳』天平 8 年 (736) の記録にみえる「穴師神戸」です。神社の名は延長 5 年 (927) の『延喜式』「神名帳」に「泉穴師神社二座」、『延喜式』「玄蕃寮」に「和泉国安那志」とみえるのが最初です。『続日本後紀』『三代実録』などの六国史にもたびたび登場するなど、古代においては朝廷との関係も深い神社でした。

中世においては和泉五社の二宮として信仰を集めました。五社制度とは、各国で主要な神社五社を定めるシステムです。室町時代には神宮寺である穴師薬師寺が勢力を誇りましたが、安土桃山時代には豊臣秀吉の根来攻めの影響により衰退したと伝わります。慶長 7 年 (1602)、豊臣秀頼の命で片桐且元により本殿が再建され、現在、重要文化財に指定されています。江戸時代には豊中村を支配した大和郡山藩片桐家の保護を受けましたが、明治時代に入ると神仏分離令 (明治元年) や神社合祀 (明治 41 年) により、運営システムや氏子圏が大きく変化しました。



①

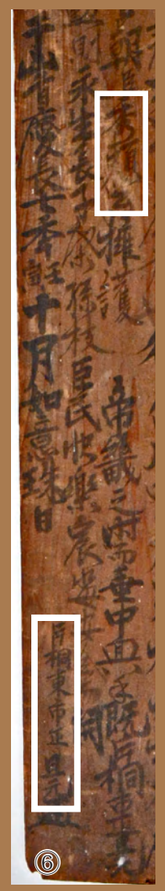
①片桐石見守による社号軸　④明治 41 年に板原から移築した合祀殿
②正平 20 年銘のある太鼓　⑤社頭絵図
③正徳 2 年銘の禁制札　⑥豊臣秀頼と片桐且元の名がみえる慶長 7 年棟札


②

③

④

⑤


⑥